

【成果を出す組織を作るマネジメント】シリーズ

業績獲得効率を上げるための “第三の道”

強い組織、強い現場を作るための、やさしい現代マネジメント！

【今もなお “団体戦” に強い日本】

スポーツでも、日本は今も “個人戦” より “団体戦” の方が強いと言われることがあります。しかも、“殊勲者が日替わり” になるような、個人差が少ないチームが、スターを擁するライバルに勝つケースも少ないとは言えないのです。

それは “チームのために自分を抑える” という、一種の “伝統” にマッチするからでしょうか。

【戦後、個人主義が “原動力” に加わった！】

もちろん “個人” も重要で、戦後、私生活や職場での “個人主義” は、私たちの社会発展の原動力にもなって来ました。特に、個人業績が明確にされた “競争社会” の下で、構成員が切磋琢磨し、生産性を上げて来たことも事実だと思います。

また、個人の自由の浸透で、自主的かつ創造的に働く人材が増えたことも重要でしょう。

【現実に出た成果も大きい】

個人にスポットライトが当たることで、各人のやる気が、益々刺激されるようになったのは、社会的なプラスでもありました。個人目標の設定等が、大きく貢献した分野も多かったはずです。

【過ぎたるは、なお及ばざるが如し】

ただ、昨今のような情勢下で、改めて組織としての生産性、つまり “業績獲得効率” を考える時、集団主義にも個人主義にも行き過ぎない “第三の道” が必要だと指摘する経営者もおられます。

なぜなら、“過ぎたるは、なお及ばざるが如し” と言われるように、“行き過ぎ” は、様々な欠点を露呈することが多いからです。

【個人と組織の調和への回帰？】

その第三の道とは、個人責任を前提にしながらも、この国の伝統でもある “チームプレイ精神” を活かして行こうとする発想から始まります。それが、行き詰まり傾向にある業務の “飛躍的な生産性向上” につながる場合が多いからです。

【マネジメント・レポートを購読しませんか？】

そこで、まずは “第三の道” の重要性を捉えた経営者の事例を、レポートの形でご用意することと致しました。制度確立の前に、“取り組みの方向イメージ” が重要だと考えるからです。

有料購読希望の方に、事例レポートを差し上げます。ご一報ください。



働き手 “一人” 当たりや、組織全体の “労働時間” に対する “成果” をベースに計算する “労働生産性” は、一般的な理屈よりも “働き手の心境” に左右される面が小さくありません。働き手の “集中度” が低ければ、業務スピードが上がらないばかりではなく、完成度の低い成果が出やすくなり、“やり直し” 時間が増大するからです。

では実際、労働生産性を左右する “働き手の心境” とは、どのようなものなのでしょうか。ある経営者の体験的な見識をご紹介します。

中堅中小企業の皆様に、現代的な “人” マネジメントの視点から、重要なニュースやノウハウをお届けする月例『経営さぷりめんとニュース』に、ご意見やご感想をお寄せください！

行政書士・社会保険労務士へんみ事務所

TEL : 022-292-2351

FAX : 022-292-2352

URL : <http://www.henmi-adm.jp/>